

れる行事になるとお聞きしました。会場の東成区民センターの小ホールでは、皆さん健康チェック表を持参され、手指の消毒、マスク着用、間隔をあけての着席など、万全の感染対策を取っていただいた上で、約70人の民生委員児童委員のご参加をいただきました。

【第一部：小泉理事長の講演／東成区民センターにて】



研修会の第一部は、小泉理事長のご講演でした。お子さんとご家族がこれまで歩いてこられた経過を、たくさんの写真を映しながら、ご紹介されました。

お子さんに障がいがあることが分かり、初めは涙を流す時間が多くあったこと、お子さんの成長を信じて、さまざまな療育活動に参加したり、遠方の先進的な障がい者保育を実践していた幼稚園まで、毎日電車で送迎して通っておられたこと、教育大附属養護学校では、障がいがあるこどもを持つ母親同士の関係を深められたこと、卒業後の暮らしを考えるために、育成会に参加し、あちこちの施設や事業所を見学に行かれたことなど、淡々と説明され、会場の皆さんも熱心に聞いておられました。

小泉理事長のお話と写真の中で私が一番心に残ったのが、お子さんが成人を迎えられた年に、ご家族皆さんが正装されて、記念にとられた1枚の写真と、お母さん同士のつながりがいろいろと力になったと話された部分でした。

ご家族の深い強い愛情と絆を強く感じたとともに、今も昔も、同じ背景を持つ人たちのつながりは、お互いを励まし、助け合う力になるのだろうと感じました。そして、まさしく、ここが育成会の原点であると再確認しました。

第二部では、『知的障がいの人たちのこと』～知的障がいの理解と関わり方のヒント～をテーマに、私からお話をさせていただきました。

東成区にどのくらいの障がいがある方が暮らしておられるのか、知的障がいとはどういう障がいなのか、知的障がい者の特性や感覚過敏、感覚鈍麻について、でも一人ひとり個々の人格があり、必ず意思があることなどをご説明し、支援する方法として、分かりやすく、安心して関わられるようなコミュニケーションが効果的であることなどをお伝えしました。

また、生活のしづらさや生きづらさは、個人の障がいそのものだけに原因があるのではなく、社会における様々なバリアとの関わりの中で不自由さが生じてくるという《社会モデル》の考え方についてもお伝えしました。

障がい者虐待防止法や、障がい者差別解消法についてもご紹介しました。あっという間に予定の時間が過ぎていました。

今後もこのような機会を重ねて行けば、街の人たちの間に、少しずつであったとしても、正しい理解が拡がり、将来どのような人でも安心して暮らすことができる街づくりに近づけることを願って、今後も大阪市育成会の多くの職員が、このような活動に参加して行けるように努力していきます。

今回お世話になりました、東成区役所の皆さん、東成区民生委員児童委員協議会の皆さんありがとうございました。

【第二部：『知的障がいの人たちのこと』～知的障がいの理解と関わり方のヒント～をテーマに藤原氏が講演】



令和3年度 一障がい者交流学習事業—
「仲間づくりの教室」を開催します

大阪市教育委員会が主催の“障がい者交流学習事業”として開催される令和3年度「仲間づくりの教室」は、引き続き大阪市手をつなぐ育成会が主管として、次のとおり開催することになりました。